

相馬市立中村第一中学校だより

螢雪の功

令和7年3月12日発行

文責 高瀬 永志

日の出の時刻が日に日に早くなり、朝に目覚めたときの明るさの違いから、春の訪れを感じます。3月は一日一日の日付に特別な意味を感じます。入試、卒業、修了、離任の日、そして震災の日。人生の節目があり、「あと何日」「前日」「当日」「次の日」と、さまざまな思いがこみ上げ、心に刻みながら過ごしているからかもしれません。卒業式の練習でみる子どもたちの態度は立派で、歌声にも心を揺さぶるものがあります。子どもたちは今、一日一日のかけがえのなさをかみしめるように過ごしていることでしょう。

いよいよ明日3月13日は卒業式です。全校生徒と職員が一体となり、心を込めて挙行する準備が整いました。そして3年生の保護者の皆様には最後の「螢雪の功」となりました。今までお読みいただいてありがとうございます。3年生と保護者の皆様への私の思いと感謝の気持ちは、明日の卒業式の式辞でお伝えしますのでよろしくお願ひします。



3月10日同窓会入会式



3年生134名が、中村第一中学校第78回同窓生として入会しました。阿部和夫同窓会長をはじめとする同窓会役員の皆様が臨席され、来賓として武山PTA会長様をお招きして開催されました。同窓会は、部活動に対して支援を行われたり、同窓生同士の親睦を深めるために、毎年行事を開催されたりしています。同じ学校を卒業した先輩たちやこれから後の後輩たちとの縦のつながり、そして同級生との横のつながり、どちらも将来の支えになっていくでしょう。式では記念品を横田貴暉さん、部活動支援金を氏家七海さんが代表して受け取り、清水瑠空さんが誓いの言葉を述べました。卒業しても、中村一中の卒業生という絆を大切にしてほしいと願います。

3月11日追悼式

あの日から14年が経ちました。追悼式では、以前お願いした体験の作文の中から代表として、1年の寺島凜さんと2年の小川愛菜さんが全校生にむけて話を伝えてくれました。月日が経つにつれ、震災の話になると、ミルクやおむつが大変だったという話題が家族から聞かれる世代になってきました。当時一番弱い立場だったのがこの子達でした。震災直後の物資が不足していたり、いろいろな場所に避難したり、大変な毎日だったと察しますが、親や家族が必死で守ってくれたことで、今があるということを子どもたちにも話しました。子どもたちには震災の経験を次の世代に語り継ぐ役目があります。また、今後成長した子どもたちが、助けられる側から助ける側になることを願っています。

3月11日後輩から先輩へコサージュ贈呈式

11日に生徒会1、2年生によるコサージュ贈呈式がありました。このコサージュはドライフラワーショップ Sora to Asa に、1、2年生が3年生一人ひとりの人柄やいいところを文章にして送り、それをもとにそれぞれのイメージにあったコサージュを制作してもらいました。2年生の大山昂さんから先輩へのメッセージとともに贈呈し、お礼の言葉を3年生を代表して池田結奏さんが述べ、心温まるひとときとなりました。コサージュは卒業式当日、3年生が胸につけ、旅立ちに花を添えます。



3月8日相馬市学力調査成績優秀者表彰式

市の学力調査の表彰式が行われ、市長賞を受賞した市内の中学生が出席しました。相馬市内全中学校生徒のうち、学年10番以内が市長賞、30番以内が教育長賞となります。一中からは各学年の大勢が受賞し、大変すばらしい結果となりました。市長からもお祝いと励ましの言葉をいただきました。これを励みにして、ますます学習に励むことを期待します。

今後の予定

- 3月13日（木）第78回卒業証書授与式
- 14日（金）福島県立高等学校合格発表
- 20日（木）春分の日
- 21日（金）修了式 給食なし 11:30 放課



